

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	教授 後藤敏文	3	火	3
◆ 講義題目	ヴェーダ文献のことばと思想				
◆ 到達目標	インド最古の宗教文献群 Veda に見られる当時の「世界理解の学」を原テキストに即して正確に把握すべく努める。神々と人間との関係、死後の問題、「輪廻」と「業」の出発点などを確認し、合わせて、我々の知識の源泉について、批判的考察の契機とする。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>最古の『リグヴェーダ』(B.C. 1200頃編集)から「ブラーフマナ」と呼ばれる祭式文献群 (B.C. 600頃に懸けて順次成立) までを対象に解説する。原資料の姿を知ってもらえるよう、翻訳例を用意する：1 インド学、インド哲学・文献学、「南アジア」；2 インダス文明と「インド」；3-4 アーリヤ諸部族とその言語文化の背景、インドヨーロッパ語族；5 リグヴェーダ「天地の歌」解説；6 インドラ讃歌解説；7-8 Devaと Asura, ヴァルウナ讃歌解説；9-10 創造讃歌、プルシャ(「人」)の歌；11 アタルヴァヴェーダ紹介と解説；12 ヤジュルヴェーダ・サンヒターとヴェーダ祭式、ヴェーダ文献群の構成；13 ブラーフマナ文献の祭式解釈学；14-15 ブラーフマナの神話。</p>				
◇ 成績評価の方法	配布コピーに基づいてレポートを提出してもらい、これによって成績をつける(100%)。詳しくは参考文献一覧とともに授業中に指示する。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。				
その他：既成の概説書にない内容が中心となるので、授業内容と配布資料とに基づきレポートを提出すること。受講歓迎。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	教授 後藤敏文	4	火	3
◆ 講義題目	ヴェーダ文献紹介「詩人のごとから業と輪廻へ」				
◆ 到達目標	インド最古の宗教文献群 Veda の中から、今日の我々に訴えかける内容をもつ讃歌、神話、議論を選び、翻訳によって紹介する。神々と人間との関係、死後の問題、「輪廻」と「業」の出発点などについて、前期の概論をより詳しく原典に即して検討する。合わせて、「人類史」に思いを致し、我々の知識の源泉について批判的考察の契機とする。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>原資料の姿を知ってもらえるよう、翻訳例を用意する：1 『リグヴェーダ』からアシュヴィン双神の歌、2 「パニ族の牛の強奪と光の回復」、3 「王プルーラヴァスと天女ウルヴァシー」、4 双子の兄妹「ヤマ(後の閻魔)とヤミー」、5 創造讃歌、6-7 アタルヴァヴェーダの呪法から、8-10 ヤジュルヴェーダ・サンヒターとヴェーダ祭式：「祭式と布施の効力」、個人の自己主張、死後の道、11-13 「ウパニシャッド」の哲学思想から、14-15 初期仏典から。</p>				
◇ 成績評価の方法	配布コピーに基づいてレポートを提出してもらい、これによって成績をつける(100%)。詳しくは参考文献一覧とともに授業中に指示する。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。				
その他：既成の翻訳や概説書にはない内容が中心となるので、配布資料と授業の中身に基づきレポートを提出すること。受講歓迎。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	准教授 吉水清孝	4	水	3
◆ 講義題目	インド哲学とヒンドゥー教				
◆ 到達目標	西暦紀元前後からイスラーム教徒による北インド支配までの、一千年を超えるインド思想史のあらましを、バラモン教学・仏教哲学・ヒンドゥー教の三つを軸にして理解すること。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>初期中世インドに成立した各学派における存在と認識、および倫理と宗教の面での中心思想を、学派相互の影響関係と共に以下の順序で解説する。01 古代思想の要約、02 時代背景の変遷:古代から中世へ、03 バラモン教学 (1):二元論 (サーンクヤ) と瞑想 (ヨーガ)、04 バラモン教学 (2): 語の意味と文の認識 (文法学・ミーマーンサー)、05 バラモン教学 (3): 聖典論と社会意識 (ミーマーンサー・法典註釈)、06 バラモン教学 (4): ウパニシャッド解釈学と一元論 (ヴェーダーンタ)、07 仏教の僧院と国際交流、08 仏教知識論 (1): 認識論と論理学の基礎、09 仏教知識論 (2): 論理学の応用、10 ヒンドゥー教 (1): ヴィシュヌ神とその化身、11 ヒンドゥー教 (2): シヴァ神と女神たち、12 ヒンドゥー教 (3): ヴィシュヌ教の神学、13-15 ヒンドゥー教 (4): シヴァ教の神学。</p>				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [70%]・(○) 出席 [30%]				
◇ 教科書・参考書	既存のインド哲学史とは進め方をやや異にするので、教科書は用いない。講義内容の要旨を毎回配布するので、出席を欠かさないこと、参考書は授業中に指示する。				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 概 論	2	教授 桜井宗信	3	水	1
◆ 講義題目	インド仏教史概説-その1-				
◆ 到達目標	釈尊の思想を中心とした初期仏教に関する基礎知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>釈尊 (紀元前5世紀頃) に始まるインド仏教史の大まかな流れを理解するとともに、釈尊自身の思想とその展開の一端をいわゆる「部派仏教」の段階まで把握することを目指す。</p> <p>講義の主なトピックは次のようである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: 釈尊の生涯と主な事蹟 2: 釈尊の思想 3: 初期仏教教団の成立と展開 4: アショーカ王と「法」 5: 「説一切有部」を中心とした部派の思想 				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [100%]・() 出席 [%]				
	() その他 [%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、教員が作成したプリントを配布。				
その他: 最初の授業において参考書、及びレポートの提出方法等について説明する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
チベット語	2	教授 桜井宗信	4	木	2
<p>◆ 講義題目 古典チベット語初級文法Ⅱ</p> <p>◆ 到達目標 古典チベット語によって著された文献の読解力を養成する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 チベット人学僧 Tāranātha の著した『インド仏教史』の訳読を行い、チベット語資料の文献研究に必要な基礎的語学力を養成することを目的とする。第11章冒頭から読み始める予定。 「歯応えのある」文章を相手にして、辞書の利用法の訓練も兼ねた十分な予習を行うことにより、読解力の深化を図る。</p> <p>◇ 成績評価の方法 () 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 Tāranātha : 『インド仏教史』 (コピーを配布する)</p> <p>その他 : 「古典チベット語初級文法Ⅰの既習者であること」を履修要件とする。また使用するべき辞書については授業の中で紹介する。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
インド学基礎演習	2	准教授 吉水清孝	3	水	4
<p>◆ 講義題目 ヒンドゥー教文献入門</p> <p>◆ 到達目標 サンスクリット語によるヒンドゥー教の基本文献を読むことにより、初等文法で学んだサンスクリット語の活用と構文に習熟すると共に、デーヴァナーガリー文字と宗教文献の語彙を習得し、さらにヒンドゥー教の基本的思考法を理解する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 Bhagavadgītā (『神の歌』岩波文庫に和訳あり) は、ヴィシュヌ神の化身であるクリシュナと人間アルジュナとの対話篇であり、現代においてもヒンドゥー教徒の代表的な聖典である。今学期はその第13-15章と第18章を中心に講読をする。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。第1回 : Bhagavadgītā の成立 ; 第2回 : XIII, vv. 1-10 土地 (= 身体) を知る者 ; 第3回 : XIII, vv. 11-20 知の対象となるブラフマン ; 第4回 : XIII, vv. 21-34 土地 (= 身体) の正しい見方 ; 第5回 : XIV, vv. 1-10 根本原質の3要素 ; 第6回 : XIV, vv. 11-27 3要素の超越 ; 第7回 : XV, vv. 1-10 不滅の宇宙樹 ; 第8回 : XV, vv. 11-20 体内に入る神 ; 第9回 : XVIII, vv. 1-12 行為の結果の捨離 ; 第10回 : XVIII, vv. 13-19 行為の五要因 ; 第11回 : XVIII, vv. 20-35 知性の3種 ; 第12回 : XVIII, vv. 36-44 階級ごとの行為 ; 第13回 : XVIII, vv. 45-53 自己の義務の遂行 ; 第14回 : XVIII, vv. 54-71 信愛と恩寵 ; 第15回 : XVIII, vv. 72-78 Bhagavadgītā 全体のまとめ。</p> <p>◇ 成績評価の方法 () 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 コピーを配布する。</p> <p>その他 : 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論	2	准教授 吉水清孝	5	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献講読 (1)				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	『マハーバーラタ』は、王家の争いに端を発する大戦争を描き、そのなかに社会倫理と宗教の全体にわたる教説を盛り込んだ世界最大の大叙事詩である。今学期は、昨年度に引き続き、大戦争の末にカウラヴァ全軍を失ったドゥルヨーダナとビーマとが繰り広げる棍棒による決戦の後半部で、決闘に敗れたドゥルヨーダナと神の化身クリシュナとの応酬の場面を中心に講読する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論	2	准教授 吉水清孝	6	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献講読 (2)				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	『ヴィシュヌ・プラーナ』は、ヴィシュヌ信仰を一貫して説く比較的成立の早いプラーナであり、特にその第1巻・第2巻に説かれる宇宙創造説は、ヴィシュヌ教徒にとどまらず、ヒンドゥー教徒一般の伝統的な世界観と時間論の雛型を成していると言ふことが出来る。今学期は、第1巻冒頭の三つの章を解読して、『ヴィシュヌ・プラーナ』の世界観の基礎を理解することを目的とする。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論	2	非常勤 講師 茂 木 秀 淳	集中 (5)		
◆ 講義題目	Mokṣadharmā にみられる初期サーンキヤ思想				
◆ 到達目標	(1) 古代インド最初期の思想であるサーンキヤ思想形成期の様相について理解する。 (2) 叙事詩のサンスクリット語に慣れる。				
◆ 授業内容・目的・方法	Mokṣadharmā 中のサーンキヤ思想に関連する章(187章、291章以降)を抜粋して、輪読形式で読みながら検討し、初期のサーンキヤ思想の基本的な概念について理解を得ることを目的とする。				
◇ 成績評価の方法	平常点(100%)				
◇ 教科書・参考書	テキストはプーナ版 Mahābhārata を用い、必要な部分をコピーして配布する。参考書は随時紹介する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	教授 桜 井 宗 信	5	水	2
◆ 講義題目	Bu ston Rin chen grub 著『秘密の門を開く』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	チベット仏教界を代表する学僧 Bu ston Rin chen grub の著作『秘密の門を開く』(gSañ baḥi sgo ḥbyed) の講読を通じて、13世紀チベットにおける Guhyasamājatantra 理解の標準的様態、及び密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他(授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	gSañ baḥi sgo ḥbyed [Toh 蔵外5075]、『Bu ston 全書』第9巻所収				
その他：「古典チベット語初級文法Ⅰの既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	教授 桜井宗信	6	水	2
◆ 講義題目	Bu ston Rin chen grub 著『秘密の門を開く』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	前セメスターに引き続き Bu ston の『秘密の門を開く』の講読を行い、インド・チベット密教学に関する知識の深化と古典チベット語読解能力の更なる向上を目指す。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	gSañ baḥi sgo ḥbyed [Toh 蔵外5075]、『Bu ston 全書』第9巻所収				
その他：「古典チベット語初級文法 I の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	教授 後藤敏文	5	月	4
◆ 講義題目	サンスクリット文学選				
◆ 到達目標	サンスクリット語、サンスクリット文学について訓練を行う。				
◆ 授業内容・目的・方法	インド美文学を代表するカーリダーサの「シャクンタラー姫の物語－想起の場－」を題材とする。第2幕から始める。毎回出席者全員に訳してもらう。合理的に予習と復習とを心がけること。				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と取り組み方とによる。				
◇ 教科書・参考書	M. Williams 版に基づく。文法、シンタクスの基本に留意すべく参考書を利用する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	教授 後藤敏文	6	月	4
◆ 講義題目	ブラーフマナ選				
◆ 到達目標	文法事項（活用、派生法、シンタクス）を点検しつつ、古インドアーリヤ語の習得に努める。祭式を巡るインド思想史の展開にも留意し、文献学、ヴェーダ学の基礎知識、方法を学ぶ。				
◆ 授業内容・目的・方法	「シュナハシェーパの物語」、「パニ族の牛の強奪」を予定。古インドアーリヤ語散文文献に関する研究能力を養い、神話や祭式の意義付けの展開を追う。毎回出席者全員に順番に訳してもらい、予習が十分できない場合にも出席してノートを取り、復習に時間を懸けること。				
◇ 成績評価の方法	授業において示される能力と取り組み方を基準とする。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。Delbrück, Mayrhofer, Gotō (Morphology) を座右に置くこと。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	准教授 吉水清孝	5	火	3
◆ 講義題目	インド哲学文献研究（1）				
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	ヒンドゥー法典は法（dharma）の認識根拠としての法源（dharmamūla）の一つとして、慣習法に相当する「良き人々の慣行」を認める。今学期は、クマーラが Tantravārttika の中で、「良き人々の慣行」が法源となりうることについて『マハーバーラタ』に描かれた英雄たちの行状を例として論じている節を講読する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。				
◇ 成績評価の方法	（ ）筆記試験 [%] ・（ ）レポート [%] ・（○）出席 [30%] （○）その他（授業での貢献度） [70%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	准教授 吉水清孝	6	火	3
◆ 講義題目	インド哲学文献研究 (2)				
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ヒンドゥー法典を代表する『マヌ法典』には数多くの註釈が書かれた。今学期は、パールチ（7世紀ごろ）による現存最古の『マヌ法典』註釈のうち、出家者の生活と瞑想を規定した第6章への註釈を中心に講読する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。</p>				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [%] ・ <input type="checkbox"/> リポート [%] ・ <input type="checkbox"/> 出席 [30%] <input type="checkbox"/> その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 演 習	2	教授 桜井宗信	5	木	1
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu (世親) の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要不可欠からざる基本典籍である。</p> <p>この授業では一昨年度に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [%] ・ <input type="checkbox"/> リポート [%] ・ <input type="checkbox"/> 出席 [70%] <input type="checkbox"/> その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	<p>用いる基本資料は次の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梵文原典：ABHIDHARMAKOSĀBHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1, Y.Ejima, 山喜房仏書林。 ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎論』（真谛訳）。 <p>※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。</p>				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 演 習	2	教授 桜井宗信	6	木	1
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では一昨年度に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読しVasubandhuの考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [%]・ <input type="checkbox"/> リポート [%]・ <input type="checkbox"/> 出席 [70%] <input type="checkbox"/> その他（授業中に示される理解度）[30%]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： <ul style="list-style-type: none"> ・梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1, Y. Ejima, 山喜房仏書林。 ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎積論』（真谛訳）。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					